

# JSBBA KANTO

## 公益社団法人 日本農芸化学会 2024年度 関東支部例会

報告者: 清水 誠 (お茶の水女子大学)

2024年11月2日(土)に、お茶の水女子大学共通講義棟2号館201号室にて、日本農芸化学会2024年度関東支部例会をハイブリッド形式で開催しました。本例会では、2024年度日本農芸化学会大会奨励賞の受賞者講演2件(関東支部受賞者は2名)と同大会トピックス賞受賞者講演を13件(関東支部受賞者は17名)行いました。現地での対面式の参加者は43名(事前登録者45名)となりました。オンライン参加者18名(事前登録者30名)とあわせ、61名の方が例会に参加しました。

創立100周年記念大会となった2024年度東京大会は、コロナ後初の対面開催となり、全体の発表数は1768題でした。その中から30題がトピックス賞に選出され、関東支部に関するものは17題となりました。その内訳は、食品分野が5題、動物分野、微生物分野がそれぞれ3題、生物化学分野が2題、有機化学・天然物化学分野、環境科学分野、植物分野、酵素分野がそれぞれ1題でした。例会でのご講演内容は食品分野と動物分野が多いですが、微生物分野、生物化学分野、有機化学・天然物化学分野、環境科学分野、植物分野、酵素分野まで様々な分野が網羅されていました。このような受賞者講演を一度にまとめて聞くことができるのも、この例会の魅力かと思います。裏面にそれぞれのご講演者とご講演タイトルをまとめました。

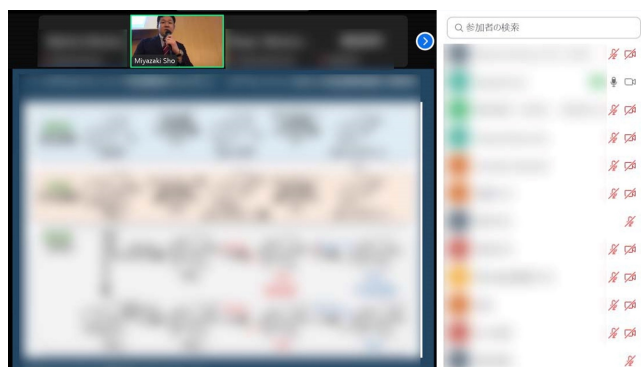
コロナ禍で強いられたオンライン学会等ですが、距離に関係なく参加ができる等の多くのメリットがあることも明らかになりました。本年度の例会でも積極的な意味でオンライン会場を設定し、ハイブリッド開催とすることで盛会を目指しました。結果的には、参加者増に貢献できたと思われまます。また、コロナ禍で開催できなかった懇親会も昨年に続き開催し、改めて対面での交流の重要性を実感しました。

最後に例会にて講演して下さった皆様、ご参加くださった皆様、運営をお手伝いして頂いたお茶の水女子大学の学生さん、支部幹事の皆様に感謝申し上げます。

### 現地会場(201号室)の様子



### オンライン会場(zoom)の様子



## <2024年度 奨励賞受賞者講演 2件>

大橋 一登(群馬大学)

ミトコンドリアにおけるNADP(H)供給とその調節に関する分子生化学的研究

宮崎 翔(東京電機大学)

植物における新たな生活環制御に関わるテルペノイドの生合成研究

## <2024年度 奨励賞受賞者講演 13件>

馬橋 英章(bitBiome株式会社)

新規PET分解酵素の同定と表面特徴量解析を用いた酵素改変

元内 省(東京理科大学)

$\alpha$ -1,6-Cyclized  $\beta$ -1,2-glucohexadecaose合成酵素の発見; *Xanthomonas*属に汎用な新農薬ターゲット

吉留 大輔(東京大学)

窒素固定細菌を用いた大気中窒素を由来とするL-グルタミン酸発酵法の改良

関口 勇地(産業技術総合研究所)

ゲノム情報から予測した大規模タンパク質量情報と質量分析による広範囲な原核微生物の迅速同定

浪川 勇人(東京大学)

CO<sub>2</sub>固定技術の開発に貢献するバイオミネラル粉末の機能解析

手塚 大介(農研機構)

*in planta* Particle Bombardment法によるソバのゲノム編集系の開発

吉田 洋則(昭和産業株式会社)

澱粉から得られる短直鎖糖質の諸性質と食品への応用

飯嶋 益巳(東京農業大学)

イムノスティック法を用いた食物アレルギーの簡便・高感度検出技術の開発

柏木 貴裕(高砂香料工業株式会社)

TRPA1/TRPV1アゴニストによる炭酸感の増強

戸田 安香(明治大学)

脊椎動物における旨味・甘味受容体T1Rの進化多様性の解明

伊原 さよ子(東京大学)

酢酸イソアミルの香り知覚に寄与するヒト嗅覚受容体の同定

石川 理絵(東京大学)

条件づけ味覚嗜好学習によって苦味溶液に対する嗜好性的人為的向上

福山 雄大(東京大学)

前頭前野における新規食物摂食経験を記憶するエンGRAMニューロンの発見